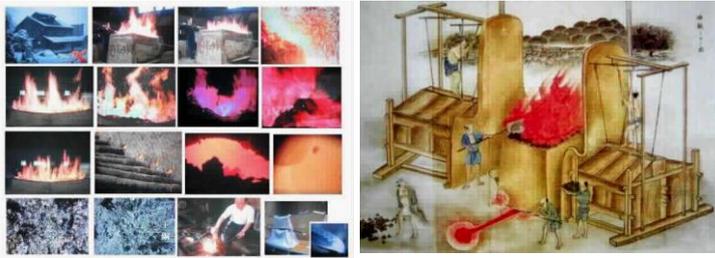


わてつ みち

## 和鉄の道 ・ Iron Road

鉄の「まばゆい輝き・閃光」と「黒光り・肌光」  
日本には「たたら製鉄」という鉄鉱石や砂鉄の塊から、  
「硬くてねばい鋼」を直接作り出す日本古来の製鉄法がある。  
ヒッタイトが人工鉄を発明した当初の姿を現代まで残し、  
現在の製鉄法にも負けない高品質の鋼を作り出す技術に高め、  
維持している日本独自の製鉄法である。



日本に「鉄」が伝来して、この「たたら製鉄」が行われるまで、約800年の長きにわたってたたら製鉄法の模索が続き、その技術をさらに磨き高めながら1500年続いてきた日本独自の製鉄技術。「鉄は国家なり」「鉄は産業の米」と「鉄」の力が強調されるが、一方で文化を育み、そこに住む人たちの生活を豊かにし、現在に至る日本の国造りを作ってきた。

そんな今、急速な社会変革の中で この製鉄にともなう数々のドラマが忘れ去られ、日本各地の「たたら製鉄」遺跡もろとも消え去ろうとしている。

製鉄炉は生産された鉄塊の取り出し毎に壊されるので 製鉄関連遺跡に残っている遺構はそんな生産設備の残骸。製鉄関連遺跡にはそんな遺構・生産の痕跡とともに、それに携わった人々の賑わいや数々のドラマ・歴史が周りの美しい景色とともに埋もれて残っています。

日本で繰り広げられた数々のドラマ そして その痕跡の風景を少しでも残しておきたいと「和鉄の道・Iron Road」として日本各地をCountry Walk しつつ集めています。

鉄は「文化」をはぐくむとともに数々の「戦さ」をも生んだといわれる。それだけ 鉄の力の大きさの証明であり、そうだろうと思いますが、大事なものは それを使う人々の力・心。

その根底には日本人の心の故郷「心優しき縄文の世界」がある。

「鉄」の持つ魅力 「鉄のまばゆい輝き・閃光」と「鉄の黒光り・肌光」  
その美しさをこれからも大事にしたいと思っています。



(愛媛大学「中国西南地域の鉄から古代東アジアの歴史を探索」シンボより)



古代大和への鉄の道 淀川・木津川 大和川 紀ノ川



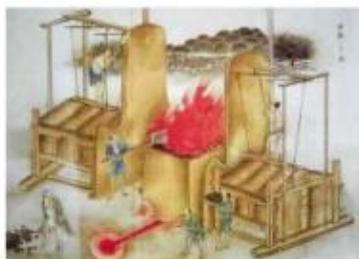
古代 越後の大製鉄コンビナート 柏崎 軽井川南谷製鉄跡群



砂鉄採取の残丘が残る砥峰高原 奥出雲 松工道路建設工事でたたら遺跡続々と



## 2017 年 和鉄の道 Iron Road【17】の口絵



### 口絵-1 注目の愛媛大 村上恭通教授の鉄の起源説 解明への期待膨らむ

2016年 ヒッタイト以前の世界最古の鉄の発見と地中海東岸の銅の産地での銅製錬の副産物として鉄が生まれた可能性を提案され、大きな話題に。

### 口絵-2 淡路島北部津名丘陵 弥生時代山間地集落群の拠点集落

鉄器工房を有する舟木遺跡の出土 淡路島が卑弥呼の時代の謎を解き明かす?

国生み神話・松帆銅鐸・鍛冶工房・朝鮮半島交易の海の民・野島&三原の海人等々

### 口絵-3 「ステンレス スチール」という名前のバラ

### 口絵-4 奥播磨の中国山地から古代たたら郷を流れ出た千種川の河口赤穂

千種川 砂鉄の痕跡を探して 兵庫 100名山 赤穂市「黒鉄山」と赤穂千種川河口

### 口絵-5 燃え滾るたたら炉の火花 「鉄のまほろば」の本の表紙を飾る

山陰地方の社会・文化を紹介した本「鉄のまほろば 山陰たたら郷を訪ねて」



1. 淡路島北部の津名丘陵の弥生後期の生産工房群とみられる山間地集落遺跡群 2017.1.26. 17iron01.pdf  
 その中心の「舟木遺跡」から国内最大級の鍛冶工房跡が出土  
 淡路島弥生時代の鉄器拠点「淡路市 舟木遺跡」鉄器の交易をなりわいか？  
 近くの五斗長垣内遺跡を上回る新たな「弥生の鉄器拠点 国内最大級の鍛冶工房跡」が出土  
 1. 参考資料【1】淡路島舟木遺跡で 弥生後期の鍛冶工房出土を伝える「2017.1.26.朝刊各紙報道」  
 2. 参考資料【2】大阪弥生文化博物館 2016 年春季特別展 第3 回考古学セミナー聴講まとめ by Mutsu  
 伊藤宏幸氏講演「淡路島 五斗長垣内遺跡にみる弥生時代の鉄器生産」2016. 5.28.  
 3. 参考資料【3】淡路文化資料館 伊藤宏幸氏講演資料  
 「淡路島の弥生時代と山間地集落 五斗長垣内遺跡と舟木遺跡」 2015.12.12.
2. 7世紀に築かれた大和川水系にある日本最古のダム形式のため池 Walk 2017.3.14. 17iron02.pdf  
 狭山池(大阪府南部の大阪狭山市)を久しぶりにたずねました
3. ≪鉄のはなし あれこれ≫ 「鉄のまほろば」 2017.5.5. 17iron03.pdf  
 山陰中央新報社編「鉄のまほろば -山陰たたらの里を訪ねて-」の本の紹介
4. 資料 大阪歴史博物館 特別展「渡来人 いずこより」見学記 2017.5.18. 17iron04.pdf  
 渡来人のふるさと探し 大陸・朝鮮半島から伝来した先進文化・技術の空白を埋める手掛かりに  
 ◎参考 1. 今 畿内と朝鮮半島交易に携わった淡路島の海人が注目されている  
 2. 特別展「渡来人 いずこより」図録より 見学整理
5. ≪鉄のはなし あれこれ 2017 盛夏≫ PDF Photo 2017.8.5. 17iron05.pdf  
 1. ≪鉄の風景≫ かすむ淡路島を背に加古川河口東岸に神戸製鋼加古川の高炉遠  
 2. 「ステンレス・スチール」という名前のバラをご存知でしょうか・・・
6. 奥播磨の中国山地から古代たたら郷を流れ出た千種川の河口赤穂 2017.8.19 17iron06.pdf  
 - 千種川 砂鉄の痕跡を探して - 兵庫 100 名山 赤穂市「黒鉄山」と赤穂千種川河口 walk  
 1. 兵庫 100 名山「黒鉄山」 2. 赤穂千種川河口 walk 砂鉄浜の痕跡を探して 3.千種川堤防から赤穂城址  
 追補 2017.9.10.再度赤穂へ千種川河口東端の小砂浜に砂鉄を見つけました  
 ◎ 参考 たたら郷奥播磨から流れ出る千種川 運んだ大量の土砂が河口に塩田地帯をはぐくんだ  
 1.赤穂に塩田を作り出した播磨北部のたたら製鉄& 赤穂の塩田開発の歴史地図  
 2.かつての東浜塩田跡に復元された塩田施設「赤穂海浜公園塩の国」  
 3.千種川の河口近く、鉄の名前がつく兵庫 100 名山「黒鉄山」と「鉄」との関連
7. まったく火山も何も無い平地に沸く天然かけ流し 太古にルーツを持つ赤湯の秘湯 2017.8.28. 17iron07.pdf  
 武庫川河口近く 街中の秘湯 赤湯の温泉銭湯「クア武庫川」  
 名湯有馬温泉と同じ泉質 太古のロマンを秘めた含鉄-トリウム-塩化物強塩温泉(高張性・中性・高温泉)
- 8 2017 秋 今右衛門の色鍋島のプラチナ釉 & 縄文のビーナス 17iron08.pdf  
 1. 兵庫県陶芸美術館特別展「今右衛門の色鍋島 煌めく人間国宝のわざと美、そのルーツ展」  
 2. 京都国立博物館特別展 「国宝展」久しぶりに縄文のビーナス・女神たちに出会ってきました
- 9 古い記憶を思い起こしながらの大阪港の渡し walk 2017.10.27 17iron09.pdf
- 10 第 10 回 愛媛大学 東アジア古代鉄文化研究センター国際学術シンポジウム 2017.11.25 17iron10.pdf  
 文明と金属器 - 普及とその過程 - 聴講記録 by Mutsu Nakanishi  
 1. 津本英利氏「金属器の故郷 アナトリア」 講演要旨  
 2. 山藤正敏氏「レヴァントにおける金属器の導入とその背景」 講演要旨  
 3. 河江肖剰氏「ギザのピラミッドの銅と鉄」 講演要旨

和鉄の道・Iron Road 2017 掲載記事 トピックス

◎ 愛媛大学東アジア古代鉄文化センター設立 10 年、  
古代鉄研究のナショナルセンターのさらなる展開スタート



「鉄の起源&ユーラシア大陸の Metal Road 探求」の一年の成果レビューをかねて毎年 12 月に愛媛大学で開催される国際シンポジウム。本年第 10 回目を迎え「文明と金属器 - 普及と-その過程」が開催された。世界文明の先進地であり、金属器発祥の地でもある西アジアでの国際連携による取組の第一歩として、金属器・鉄器の源流 鉱物資源の豊富な文明の先進地 西アジアにおける「石器→銅器→青銅器→鉄器への金属器の普及とその過程」のテーマで最前線で活躍中の専門家たちのレビューと相互討論が開催され、その聴講要旨を取りまとめました。

日本の研究者たちの活躍で従来の常識が次々と覆る西アジアの様相

専門家たちのレビューと相互討論から、金属器・鉄器が誕生し、普及してゆく実像が次々と浮かび上がってくる。今まで西アジアとひとくくりでしか知らなかった文明の先進地 ヒッタイトのアナトリア 銅の大生産地東地中海沿岸エヴァント・パレスチナ そしてエジプト・メソポタミア それぞれが、違う様相をしめしながら、交易の広いネットワークで、支えあう。そんな中で、銅器・鉄器が生まれ、利器へと展開し、世界へ伝播してゆく。まったく知らなかった展開にびっくり

注目の愛媛大古代鉄研究所長村上恭通教授の鉄の起源説

「ヒッタイト以前に東地中海沿岸のレヴァント・パレスチナで、銅生産の副産物として人工鉄が誕生」

さらなる具体的な調査研究の進捗が楽しみでしたが、成果はまだこれから。

これからさらにどんな新しい展開があるのか 楽しみな西アジアでの共同連携の始まりです。

● 聴講資料 第 10 回 愛媛大学 東アジア古代鉄文化研究センター国際学術シンポジウム

「文明と金属器 - 普及とその過程 -」 聴講記録 by Mutsu Nakanishi 2017.11.25.

<http://www.infokkna.com/ironroad/2017htm/iron13/1712ironroadsympo.pdf>

◎ 国内の製鉄関連遺跡探訪

淡路島の弥生時代の鉄器工房を有する山間地集落群の拠点集落 舟木遺跡

古代製鉄の奥播磨〜瀬戸内へ流れ下り、河口に広大な塩田地帯を作り、赤穂の街を作った千種川河口



淡路島北部丘陵に出現した山間地集落群(2015 淡路市教委伊藤講演資料より)

昨年、国生神話の出雲・淡路は強い結びつきを示す松帆銅鐸で沸いた淡路島で、本年 2 月 最古の鉄器生産工房村五斗長垣内遺跡のすぐ近くの山間地で、五斗長垣内遺跡をしのご鉄器工房を有する山間地集落群の拠点集

落舟木遺跡が出土。この地周辺は野島海人の根拠地でもあり、淡路島が日本の国造りの始まりに果たした役割に注目が集まっている。また、舟木遺跡を中心とした山間地集落群は生産工場の集落群の性格が強く、従来述べられてきた戦争に備えた高地性集落とは性格が異なっており、弥生の高地性集落の視点を変えるかもしれぬ。自宅からは明石海峡をはさんで、すぐ南 現地見学に行こうと思いつきながら、まだ行けずにいる。



街の背後にそびえる黒鉄山とその頂上から眺めた千種川の河口に広がる赤穂の街



Iron Road を歩く 千種川の河口 赤穂 鉄の名の付く黒鉄山・千種川河口東浜唐船山の渚に砂鉄を見つかる 古代製鉄の奥播磨～瀬戸内へ流れ下り、河口に広大な塩田地帯を作り、赤穂の街を作った千種川河口 膨大な砂の量とともに砂鉄が流れ下り、河口には砂鉄浜があったはずですが、埋め立てられ他工業地帯にその痕跡は見られず。でも、再度出かけた 千種川河口東浜の渚で、すこしですが砂鉄の体積を見つけました。

また、赤穂の町の北西に兵庫 100 名山「鉄の名がつく山・黒鉄山」にも登り、瀬戸内の千種川河口の街赤穂を眺めました。

また、美しい響きのあることば「まほろば」を冠して 山陰地方のたたら製鉄が育んだ山陰地方社会・文化を紹介した「鉄のまほろば 山陰たたらに里を訪ねて」の本にも出会いました。

このほか、いろいろな姿を見せる現代の鉄にも出会いあえ、

この1年色々思いを巡らしながらのうれしい

「和鉄の道・Iron Road」探訪記でした。

お暇な時にでも掲載記事をご覧ください。

*和鉄の道・iron road 2017 を整理しつつ Mutsu Nakanishi*

地方の新聞社が出版する本の新聞広告欄「ふるさと発見 新聞社の本」に 山陰中央新報社編

「鉄のまほろば ～山陰たたらに里を訪ねて～」が「今も残る日本遺産のたたら製鉄。山陰を中心に訪ねる」の紹介文とともに掲載されているのを見つけ、「鉄のまほろば」「今も残る日本遺産 山陰たたらに里を訪ねて」の紹介文に魅かれて、神戸の駿々堂書店を覗くと、金属の書籍棚の隅っこに置かれているのを見つけました。

「国のまほろば 大和」「北のまほろば 津軽」など「まほろば」の言葉には、なんとも心地よい響きがある。深く考えたことはないが、素晴らしいとか うるわしい 豊たかなどのセンター的な地域や場所をさすのだと思っていました。

「大和は 国のまほろば  
ただなづく 青垣山ごもれる 大和し 美しい  
古事記 倭建命  
可馬遺太郎 街道をゆく 41 巻  
「北のまほろば (津軽)」

